

証券コード 3580

# 株 主 通 信

第 1 0 7 期 近 況 報 告

2018年4月1日—2018年9月30日

komatsumateRe



小松マテレー株式会社

# 「小松精練」から「小松マテーレ」へ。 第3次創業期の幕開けを宣言します。

代表取締役社長 池田 哲夫

小松精練株式会社は本年10月1日をもって、「小松マテーレ株式会社」と社名を変更しました。9月末の日本経済新聞には、「小松精練 解散します!」の広告が掲げられ、業界を問わず大きな反響が寄せられました。新社名の告知広告を“解散”とした真意は何か。今、なぜ社名変更なのか。経営トップの池田哲夫に聞きました。



## “第3次創業期”に問われるもの

このたびの社名変更は、単なる看板の書き換えではありません。新生「小松マテーレ株式会社」のもと、全グループ社員の意識と行動の改革を進め、新しい企業に生まれ変わることが目的です。

数年前までは耳にすることがなかったIoT(モノのインターネット)・AI(人工知能)の発達など、我々の繊維業界のみならず、世界的にも、何十年に一度のパラダイムの変化が起きています。ダーウインの言葉に「強い者が生き残るのではなく、変化できる者が生き残る」とあるように、私たちもこの変化に対応してゆかなければならないと考えています。

75年の歩みを振り返ると、小松織物精練染工の20年は第1次創業期、小松精練の55年は第2次創業期と位置づけることができます。小松マテーレとしての船出はまさに第3次創業期の“始まり”と言えます。

社会の公器である企業には、社会に役立つ事業を“続ける”責任があります。今回、新社名を告知した広告ではあえて“解散”と表現しました。それは一日も長く事業を続けてゆくため「ゼロから出直すくらいの覚悟でやろう」という当社の決意を示しています。

## 勝ち残るために提案型ビジネスを目指す

今回の社名変更では、長らく慣れ親しんできた「精練」が消えています。「精練」は繊維の加工プロセスに欠かせぬ言葉ですが、IoTやAIが加速し、ビジネスの世界で国境が消滅しつつある今、時代にマッチしない古びた言葉となりました。

今、当社は事業を多角化し、主軸の合成繊維の高次機能加工にとどまらず、建築・土木分野などにまで水平方向に事業を広げ

ています。

もう一点、大切なことを付け加えると、第1次創業期以降の当社の業態はOEM生産、つまり大手繊維メーカーなどからの受託生産が主流でした。しかし、グローバル化が進み、スピードが求められる今、じっと注文を待つ姿勢では生き残れません。

これからはOEMの“E”を“D”に変えるODMに移行したいと思っています。ODMの“D”はデザイン(設計・開発)、つまり「提案」を意味します。当社ではこの形態を「横請け(よこうけ)」と表現します。お客様に高次加工を提案し、対等な立場で需要を創造するための提案型ビジネスの強化です。

## 一人ひとりの“意識”と“考動”を変えよう

社名変更は私たちが変わるための“きっかけ”であり、そのための区切りと言えます。私はこの機会に率先して大胆な社内改革を打ち出し、社員にも成長してほしいと願っています。

これからは、この動きに遅れずについてこられる社員、それを追い越すぐらい勢いのある社員になってほしいと考えています。また、意識改革を進めるため、この機会にすべての社員が朝礼時に「考動指針」の唱和を始めることとしました。

## 新しい社名やロゴに込めた思い

新社名を考える検討会では、「素材」=「Material(マテリアル)」は欠かせないとの声で一致しました。もうひとつそこに加えたのが、「繰り返し、繰り返し創造し続ける」の意味を表わす“Re”の2文字でした。“Material”と“Re”の結合により、“mateRe”(マテール)というまったく新しい造語が生まれました。さらに、創業時の先人達の血のじむ苦労を忘れてはならないとの思いを込め、創業の地を示す「小松」をそれに加えました。その結果、新社名は「小松マテール」となりました。私は1日も早く「小松マテール」が社会から認知されるとともに、旧社名「小松精練」がなつかしみをもって語られる日が来ることを望んでいます。

これを機会に、「社名ロゴ(コーポレートロゴ)」もデザインを一新しました。10月1日からは、“komatsu mateRe”という英語表記の「コーポレートロゴ」と富士山マークのある「事業ブランドロゴ」の2つに統一されます。すでに欧州を中心に、「富士山」ロゴは「KOMATSU」とワンセットで浸透し、ブランド化に成功しています。そこで、この事業ブランドロゴを同時代の感覚にマッチさせ、長期使用が可能な、奇をてらわないスマートなデザインに進化させました。

なお、広告などで使用される新スローガンは、“Art in Technology”(アート・イン・テクノロジー)としました。日本語で「美しい技術」と訳していますが、グローバル展開を見据え英語表記としました。

新生「小松マテール」は、グローバルを視野に人々の健康・快適・安全な社会の実現に向けて邁進します。引き続き株主の皆さまのご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

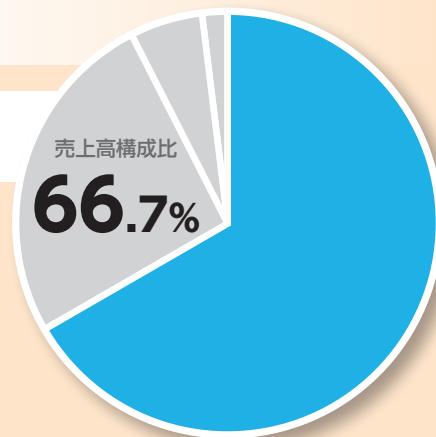
Art in Technology  
**komatsu**mateRe



## ●セグメント別の概況

### 衣料ファブリック部門

売上高 **13,100**百万円 (前年同期比 6.2%増)

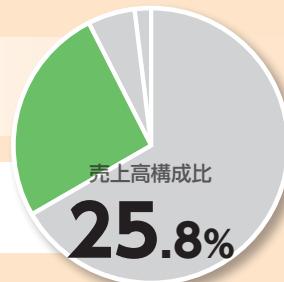


衣料ファブリック部門は、国内外において高感性・高機能素材の開発と市場導入を進めてまいりました。なかでも海外向けファッション分野、海外向けスポーツ・機能分野については順調に拡大し増収となり、中東向け民族衣装は減少となるも概ね計画通りに推移しました。国内向けは総じて厳しい市場環境にあるなか、スポーツ・機能分野が海外同様に順調に推移し、当部門全体は増収となりました。

## 資材ファブリック部門

売上高

**5,076**百万円 (前年同期比 7.2%増)

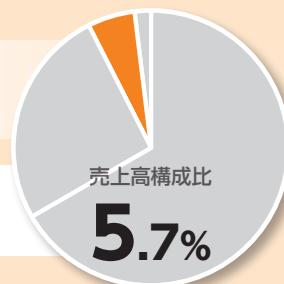


資材ファブリック部門は、国内の車輦内装材が減収となる一方、生活関連資材分野及び、医療・福祉のメディカル分野を中心に順調に増加しました。また、リビング分野についても概ね計画通りに推移したことから、当部門全体は増収となりました。

## 製品部門

売上高

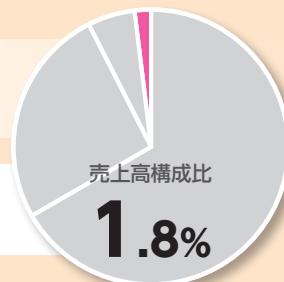
**1,116**百万円 (前年同期比 6.6%減)



## 物流物販事業

売上高

**353**百万円 (前年同期比 5.1%減)



# Topics

Topics

1

## 企業版ふるさと納税で紺綬褒章の栄誉を受ける

企業版ふるさと納税\*で石川県小松市と茨城県境町に多額の寄付をしたとして、国から紺綬褒章（こんじゅほうしょう）\*を受けました。

6月14日に小松市役所で伝達式が行われ、和田慎司小松市長と橋本正裕境町長から中山会長が褒状を授与されました。当社は、創業の地である小松市に2016年度に2,500万円を寄贈し、来春に開設する九谷焼体験施設の整備費として活用されています。また、2017年度も体育施設の整備費として7,000万円を寄贈しています。一方、茨城県境町へは、2015年9月に同地を襲った豪雨による鬼怒川の氾濫被害を受け、当時40歳だった橋本町長が先頭に立って奮闘する姿を報道で知り支援を行うことになったもの。2016年から2018年までに7,500万円を寄贈し、新しい町づくりに役立てられています。

\*企業版ふるさと納税：地方創生応援税制。税負担の軽減効果が与えられている。

\*褒章：社会や公共の福祉、文化などに貢献した者を顕彰すること。



Topics

2

東京大学と共同展示会「東大展」を開く

## 建材で都市環境を変える

東京大学工学部建築学科隈研吾研究室と共同で8月に東京大学で展示会・シンポジウムを開催しました。

今年は、「この先に繋げる都市環境のアイデア」と題し、従来のコンクリートを中心とした建築から、「植物」「土」「石」などの自然素材を重視した建築、自然の機能性を生かした「グリーンインフラ」に加え、日本発の先端素材「炭素繊維」の活用法を提案しました。

シンポジウムで隈研吾教授は「木造建築の耐震補強に木よりも重い鉄を使うのは本末転倒だ。炭素繊維なら軽やかに補強することが可能となる。」と語りました。

展示スペースには、当社の炭素繊維複合材料「カボコマ」を使って白樺の木を組み上げたオブジェ、多孔質セラミックス「グリーンビズ」を用いたビル屋上の治水インフラ「グリーンビズダム」などが展示されました。



Topics

3

「プルミエール・ヴィジョン」に出展

## ファッション素材の世界的見本市

世界最高峰のファッション素材見本市「プルミエール・ヴィジョン」が、9月にフランスのパリで開催されました。この見本市で提案されるカラーや素材は、今後のファッショントレンドを占うといわれています。

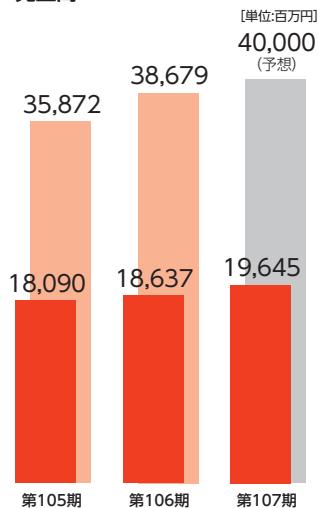
当社の参加は、日本企業中で最多の32回目を誇り、おなじみの来場者も数多くみられました。今年のテーマは、「差別化した素材の定番化」。新スローガンである「Art in Technology（美しい技術）」にちなんだカテゴリーを新たに設け、当社が75年にわたり培ってきた技術力を駆使した素材のほか、国内外の企業と協業で開発した素材を展示し、海外の有力ブランドのバイヤーから熱い視線を集めました。



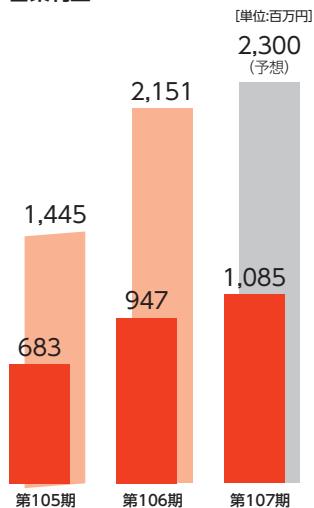
# ●財務ハイライト

■ 第2四半期累計 ■ 通期

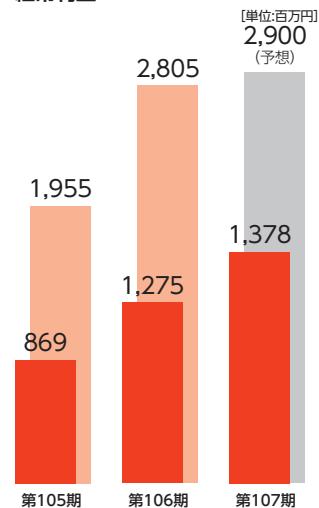
## 売上高



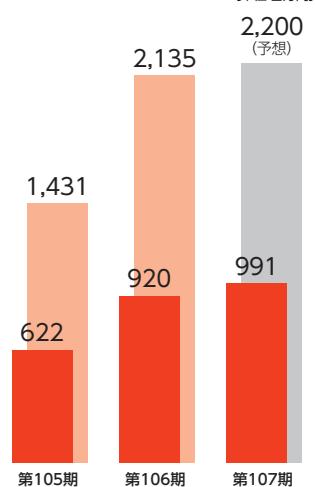
## 営業利益



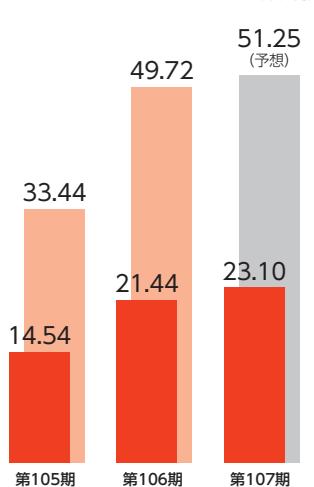
## 経常利益



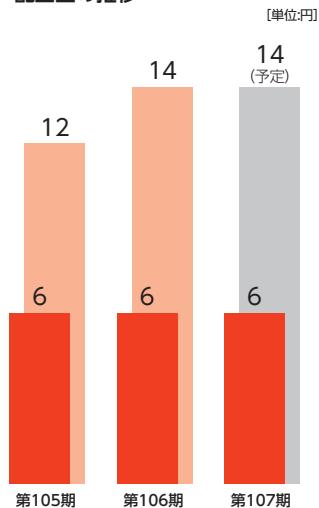
## 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



## 1株当たり四半期(当期)純利益



## 配当金の推移



## 株式情報

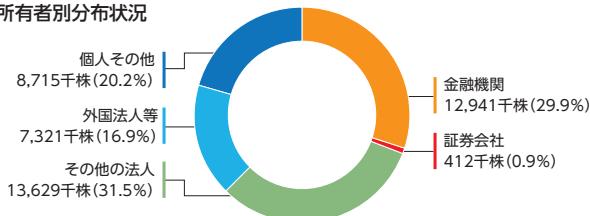
### 発行済株式総数

43,140,999株

### 株主数

5,917名

### 所有者別分布状況



### 大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東レ株式会社	3,749	8.71
THE SFP VALUE REALIZATION MASTER FUND LIMITED	3,377	7.84
株式会社北國銀行	2,113	4.91
小松精練松栄会	1,490	3.46
日本生命保険相互会社	1,284	2.98
株式会社北陸銀行	1,263	2.93
三井住友信託銀行株式会社	1,230	2.85
株式会社クラレ	1,090	2.53
日本マスタートラスト信託銀行	1,039	2.41
THE CHASE MANHATTAN BANK,N.A. LONDON SPECIAL OMNIBUS SECS LENDING ACCOUNT	954	2.21

(注)持株比率は自己株式を控除して計算しております。

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日

株主名簿管理人及び  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人  
事務取扱場所 大阪府中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 0120-782-031

URL <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

1単元の株式の数 100株

公告の方法 電子公告(当社ウェブサイトに掲載)  
<https://www.komatsumatere.co.jp/ir/investor/>  
※事故やその他やむを得ない事由が生じた場合、日本経済新聞に掲載して行ないます。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

### 住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増等について

株主様が口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。また、証券会社に口座を開設されていない株主様は、特別口座の口座管理機関の上記電話照会先にお申し出ください。なお、単元未満株式の買取・買増の当社にかかる手数料はいずれも無料となっております。

## 会社情報

役員 平成30年9月30日現在

代表取締役会長 中山 賢一	取締役 奥谷 晃宏	監査役 高木 泰治
代表取締役社長 池田 哲夫	取締役 向 潤一郎	監査役 尾野寺 賢
常務取締役 中山 大輔	取締役 松尾 千洋	監査役 根上 健正
	取締役 福井 敏明	監査役 坂下 清司
	取締役 鳥越 和峰	

### グループ会社

小松精練（蘇州）有限公司	中国・江蘇省蘇州市
株式会社コマクソン	石川県能美市
株式会社コマツインターリンク	石川県能美市
株式会社パツソ	東京都渋谷区
株式会社セイホウ	栃木県足利市

### 会社の概況

商号 小松マテール株式会社	大阪営業所 大阪府大阪市北区梅田2丁目2番22号 (ハービスENTオフィスタワー8階)
設立年月日 昭和18年10月8日	東京営業所 東京都中央区銀座3丁目9番7号 (トレランス銀座ビルディング8階)
資本金 46億8,042万円	本社 〒929-0124 石川県能美市浜町又167番地
本社工場 同上	北陸営業所 石川県能美市浜町又167番地 (小松マテール株式会社 本社2階)
美川工場 石川県白山市鹿島町1号7番地1	上海事務所 上海市延安西路2200号 (上海国際貿易センター1913号)

## 小松マテール株式会社

<https://www.komatsumatere.co.jp/>

